

# ひとり親家庭

## 35%「食料買えなかった」

# コロナで苦境

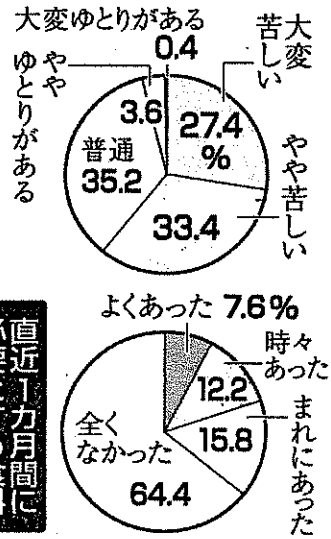
新型コロナウイルス感染拡大による、ひとり親への影響をまとめた調査結果を、労働政策研究・研修機構が発表した。年末に向けた暮らし向きが「苦しい」と回答したひとり親が計60・8%。直近一カ月間に食料を買えなかったことが「あった」と答えた人は約三人に一人に当たる計35・6%だった。

同機構は「ひとり親の厳しい状況が浮き彫りになった。政策上の支援の必要性を裏付ける結果だ」としている。

調査は十一月、二十歳未満の子を育てるひとり親と、それ以外の人を対象にインターネットで実施。計千人から回答を得た。

コロナの影響で直近の月の就労収入が減少したまま戻っていないひとり親は計20・2%だった。現在の預貯金額は「一切ない」が23・6%と最も多く、「五十万円未満」17・0%、「五十万円～百万円未満」10・4%と続いた。一方、ひとり親以外も「一切ない」が18・0%と最多だったが、二番目は「七百万円以上」16・4%だった。現在の不安を尋ねると(複数回答)、ひとり親は「感染不安」62・6%、「家計への不安」55・6%、「子どもについての不安」52・0%が上位を占めた。

### 労働政策研究・研修機構調査



新型コロナウイルスによるひとり親への影響調査